

# 12月の研修が終了しました

12月3日(日) ビッグU

エンド・オブ・ライフケアを学ぶ(在宅編) というテーマで、訪問看護ステーションなだい 管理者代理 訪問看護認定看護師 矢出 装子 講師の講義に、46名の参加があった。

訪問看護利用者が年々増加していることや、今求められるものなど、エンド・オブ・ライフを取り巻く現状についての講義があった。在宅での看取りのケアについて、疼痛・症状マネジメントや意思決定支援などのポイントについての説明があった。また、本人・家族の意思を確認するなどコミュニケーションを取り、意思決定支援をすることの重要性も学んだ。

事例を使って、グループワークを行い、活発な話し合いが行えていた。

アンケート結果より、「研修のねらいに沿った学習ができた」「グループワークで検討することで、意思決定支援のアプローチ方法の多くの考え方を知ることができた。」など、前向きな意見が多かった。



《講義の様子》



《グループワークの様子》

## 12月12日(火) 看護研修センター

職場内で円滑な人間関係を築くための具体的な方法 というテーマで、グローバルヘルスコミュニケーションズ 代表 **蝦名 玲子** 講師の講義に、71名の参加があった。

ストレス対処力 SOC の高め方として、「わかる感」「できる感」「やるぞ感」という認知、行動、動機付けに関わる3つの感覚を高めることによるコミュニケーションを円滑に図る方法についての講義があった。

いくつかの事例を用いて、グループワークを行い、実感しながら学ぶ形の研修であった。難しい問題に直面したら、どのようにコミュニケーションを取り合うとよいか、という視点で考えてみるのが大切だと学んだ。

アンケート結果から、「元気力の方法を学んだ」「今回の内容は今後の業務に役立てられる」など、学びの多い研修であった。



《講義の様子》



《グループワークの様子》



《グループワーク発表の様子》

## 12月17日(日) 看護研修センター

明日から使える摂食嚥下のテクニック というテーマで、紀州リハビリケア訪問看護ステーション 摂食・嚥下障害認定看護師 亀井 里奈 講師の講義に、71名の参加があった。

ファシリテーターとして、摂食・嚥下障害看護認定看護師 中家まゆみ 講師(海南医療センター)、宮田栄里子 講師(紀南病院)、橋本眞由美 講師(和歌山ろうさい病院)、杉山智子 講師(済生会有田病院)らがグループ演習の指導にあたった。

午前中は高齢化社会の現状、摂食嚥下の仕組み、肺の解剖生理、姿勢調整、スクリーニング検査、リスク管理など基礎的な講義に加え、高齢者や認知症患者、難病患者などの事例を用いてのアセスメントの必要性を強調した講義であった。

午後は認定看護師によるデモンストレーションを見学後、グループでの演習が実施された。研修生は積極的に参加できていた。

アンケート結果より、「具体的に学習することができ、明日からの業務に取り入れたい」「体験することで、患者さんの苦痛などを理解することができた」など、有意義な研修であった。



《講義の様子》



《ファシリテーターのデモンストレーションをビデオで映写しながら説明している様子》



《演習の様子》